

<全体分析>

試験時間

90 分

解答形式

全問マーク式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

2019 年度から大問構成が変わり、長文 4 題の総語数は「3,929→4,319→3,903→3,598→3,771」で推移している。2022 年度は分量的な負担が減少した (総語数だけでなく、設問数も 44 から 42 に減った) ことに加え、内容一致などの選択肢の数も減ったことで、例年にくらべるとかなり取り組みやすくなったが、2023 年度は一部に判断に悩む設問もあり、「やや難化」したといえる。試験時間の 90 分ですべての設問を処理するにはかなりのスピードが要求され、全体として難度の高い入試問題であるといえる。

出題の特徴

- ・定番だった会話文中での空所補充問題が、2015 年度に英文中での空所補充問題に代わってから、4 年連続して「文法・語法 (正誤判定) 1 題、中文空所補充 1 題、読解総合 3 題」という大問構成が続いたが、2019 年度からは「文法・語法 (正誤判定) 1 題、読解総合 4 題」という構成で 5 年連続して出題されている。
- ・読解問題の出典が新聞などのニュース記事 (大問Ⅱ : *Los Angeles Times*、大問Ⅲ : *Washington Post*、大問Ⅳ : *The Guardian*、大問Ⅴ : *ABC News*) であるのは、2022 年度と同じである。

その他トピックス

- ・読解問題の設問数は大問ごとに 8 で統一されている。
- ・読解問題の選択肢は「5 択」が定番だったが、2022 年度からは「4 択」が基本となっている。
- ・2022 年度は「選択肢が一括して与えられている内容一致」が読解総合 4 題のすべてで出題されていたが、2023 年度では大問Ⅲを除く 3 題で出題されていて、2022 年度同様に「6 つの選択肢から一致するものを 2 つ選ぶ」という形式で統一されている (2021 年度は 4 題中 3 題で出題されており、大問Ⅲは「10 の選択肢から 3 つ」、大問ⅣとⅤは「7 つの選択肢から 2 つ」を選ぶもので、正解の判定に悩まされるものが含まれていた)。
- ・「本文全体の要旨を問うもの」がすべての読解問題で出題されているのは 2022 年度と同じである (2021 年度は大問ⅡとⅣ、2020 年度は大問Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで出題された)。
- ・読解問題は、「空所補充」「同意表現選択」「要旨選択」「内容一致」という 4 つの設問形式の組み合わせで統一されている。なお、大問Ⅲだけが最後の「内容一致」が「4 択」で、正解となる a の選択肢の内容に訂正 (more than 5 percent greater → greater) があった。
- ・社会科学部の特徴であった「本文から推論される内容」に関する設問は、4 年連続して出題されなかった。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	文法・語法	正誤判定 (10問)	NO ERROR を含む5つの選択肢からなる設問形式や長めの英文による出題は例年通り。問われているのは基本事項であるが、英文の難度が高いので、見た目の難しさに惑わされずに、「文構造や共通関係などに着目して下線部の誤りを見抜く」ことに徹するべきで、時間をかけすぎることのないようにしたい。1の「三単現のsの抜け」など、動詞の形に絡む誤りが目立つ。	やや難
II	読解総合	「オールジェンダートイレの必要性ならびに若者にもたらすメリット」 (890 words)	空所補充4、同意表現選択2、要旨選択、内容一致。英文内容はわかりやすく、設問も解きやすいものが多い。6の a moot point は「議論の余地のある問題」という意味 (正解は a debatable question) であるが、文脈および主語の the safety issue から推測できる。	標準
III	読解総合	「米国のレストラン業界などのチップをもらう労働者の最低賃金の上昇と雇用への影響」 (973 words)	同意表現選択2、空所補充4、要旨選択、内容一致。米国のレストラン業界における賃金の上昇や待遇の改善などに関する知識があれば有利になるだろうが、設問は標準レベルである。2の正解となる parity は「(権利・賃金などの) 同等」という意味の名詞であるが、understood to be professionals like anyone else や treated you as an equal がヒントになる。	標準
IV	読解総合	「二酸化炭素の放出量を減らす、環境にやさしい食事の選択と課題」 (936 words)	同意表現選択2、空所補充4、要旨選択、内容一致。テーマである「食べるものが環境に及ぼす影響」はわかりやすいが、英文自体の難度はやや高めである。内容を簡潔にまとめた「7や8の選択肢」が内容理解を助けてくれるだろう。	やや難
V	読解総合	「各国の事情に合わせたゼレンスキー大統領による議会演説のねらい、およびその効果」 (972 words)	空所補充4、同意表現選択2、要旨選択、内容一致。ニュースでもとりあげられる機会の多い「ゼレンスキー大統領の演説」をテーマにした文章で、内容はわかりやすい。文章全体の要旨を選ぶ7の選択肢が紛らわしいが、それ以外は2022年度の大問Vにくらべると解きやすかったと思われる。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

ここ2年については、選択肢の数が減り、紛らわしい選択肢も少なくなっているとはいえ、全体的にみると依然として分量的な負担が大きいことには変わりはない。社会科学系の論説文や時事的なニュース記事からの出題が多く、そのため英文そのものの語彙レベルはやや高めである。読解問題の設問形式が同じパターンで統一されているのが特徴的であるので、過去問演習を通して慣れておくこと。また、全体的な分量が多いので、選択肢をうまく利用しながら効率よく本文を読み進めていく練習も不可欠である。文法・語法の「正誤判定」は社会科学部の定番で、英文が長めで見た目は難しそうに思われるが、判定の基準となるのはほとんどが頻出事項なので、基本となる文法や語法の知識を確実にマスターしたうえで、過去問で「(「誤りなし」を含め) 正誤判定のポイント」に慣れておくとい。